

農商工連携に取り組み、CIOがITの活用を積極的に進める企業

愛媛県東温市の遠赤青汁株式会社(従業員29名、資本金4,500万円)は青汁製品を製造・販売する企業である。関係会社で原材料のケールを有機栽培することにより、栽培、加工、販売まで一貫した対応ができる体制となっている。

同社では、顧客のクレームに対して、迅速に回答できる体制の整備が経営課題であった。それまで、農場では有機JAS 規格の認定のための栽培記録、工場では製造記録、事務所では顧客情報が、それぞれ管理されていた。

同社で、インターネットでの通信販売を担当していた現在CIO の渡部一恵氏は、これを社内で連携させ共有化できないかと考え、取組を進めることとなった。まず、「クレームを受けた製品が、どこで栽培され、いつ加工されたかといった情報を、24時間以内に得られること」と具体的な目標を定めた。

もともと農場の記録を管理していたことに加え、導入の目的が明確であったため、順調に取組を進めることができたという。情報の連携が進み、クレームが発生してもすぐに栽培記録等を確認し、素早く情報を顧客に提供できる体制ができた。新規顧客からの質問やクレームにも迅速に対応できる情報管理体制があることが、農商工連携等で連携を組む他の事業者からの信用を高め、その結果、大口の取引の獲得にもつながっている。

また、IT を基盤に、アジアの富裕層の増加や、欧米の健康志向の高まりによる需要を取り込むため、同社は海外への販売を視野に入れている。既に、台湾の百貨店で取扱いを開始し、更なる海外展開にも力を入れる。

同社は、こうした取組が評価され、2008年度から5年連続でIT 経営実践認定企業に選ばれている。認定後、渡部CIO は、自社の取組を社外に説明できる必要があると考えた。そこで、経営の視点からのIT の活用を本格的に勉強するなど、自己研鑽に努め、同社のITの取組に大きく貢献している。

ケール農場の作業風景

